

羊議団代表者野田律太等は三月十日頃より石山夕イヤ  
モンド社長及警視廳に無條件調停方を依頼したるが警視廣  
依然表面は拒絶し裏面に於て便宜を取計不程度の諒解を  
共へ、石山賢吉は以前、閑急上西に調停を應諾し、王子  
製紙株式會社の藤原銀次郎と共に倉社と交渉の結果、千  
二百名の羊議団負全部を解雇し、一名平均百圓宛の千  
を支給すること、一又内交渉したれば石山は十四日羊議  
団代表野田律太等はこの旨を告げたるに一同之れを兼議  
し、歸りて本部に協議會を開きたる如く、硬派南喜一、高  
田幸松等ハ兼服する如とふらば、遂に乱闘を演じ野田は  
行方不明とあつた。

一、解雇手当及休業中の日給として(十五日分)金拾六万七千圓支給す  
ること。  
二、必要不職工を或程度まで不復職せしむる事、

三、組合を承認すること。  
かくして石山等は愈々協調の見込た、下西に調停を切絶し  
た。  
同夜八時頃昂奮せる約五十名の一團令社の東西両通用  
門を破壊して侵入し、投石等の暴行を演じ、棟東者二十三名  
を出す等羊議団は最早自暴自棄的状态とあつた。

一四 解 決

最後の交渉決裂して羊議団幹部硬軟両派の對峙は遂に  
野田律太の所在不明とありしことは既記の通りあるが其  
の後残る幹部等は狼狽と困蹙とに包まれ種々協議の結果  
十七日遂に令社の発表條件に譲歩すること、し調停を  
王子製紙株式會社の長藤原銀次郎に依頼したるを以て令  
人は會社と懇談し茲に漸く妥協成立し十八日午後六時左  
記協定書に旁突者事者、調停あり円満終局を告ぐるに至  
つた。